

平成24年9月中間決算の概要

1.	平成24年9月中間決算のポイント	1ページ
2.	営業	2
3.	損益	7
4.	財務内容	9
5.	やや長い目でみた経営動向	12
6.	今期の業績予想	15
7.	中期経営計画の推進	16
(付)	営業店一覧	19

数字は原則として単体ベース、単位未満切捨て

1. 平成24年9月中間決算のポイント

営業

- 預金残高は流動性、定期性とも増加し3月末比294億円増。
- 預かり資産残高は3月末比4億円増。
- 貸出金は3月末比91億円の減少。うち事業性貸出金は同123億円減、消費性貸出金は同9億円増。
- 有価証券は債券を中心に3月末比102億円増。
- 利鞘は縮小傾向。

損益

- 与信関連費用の減少等から、経常利益は前年同期比6億円増の12億円。
- 最終利益は同2億円増の8億円。

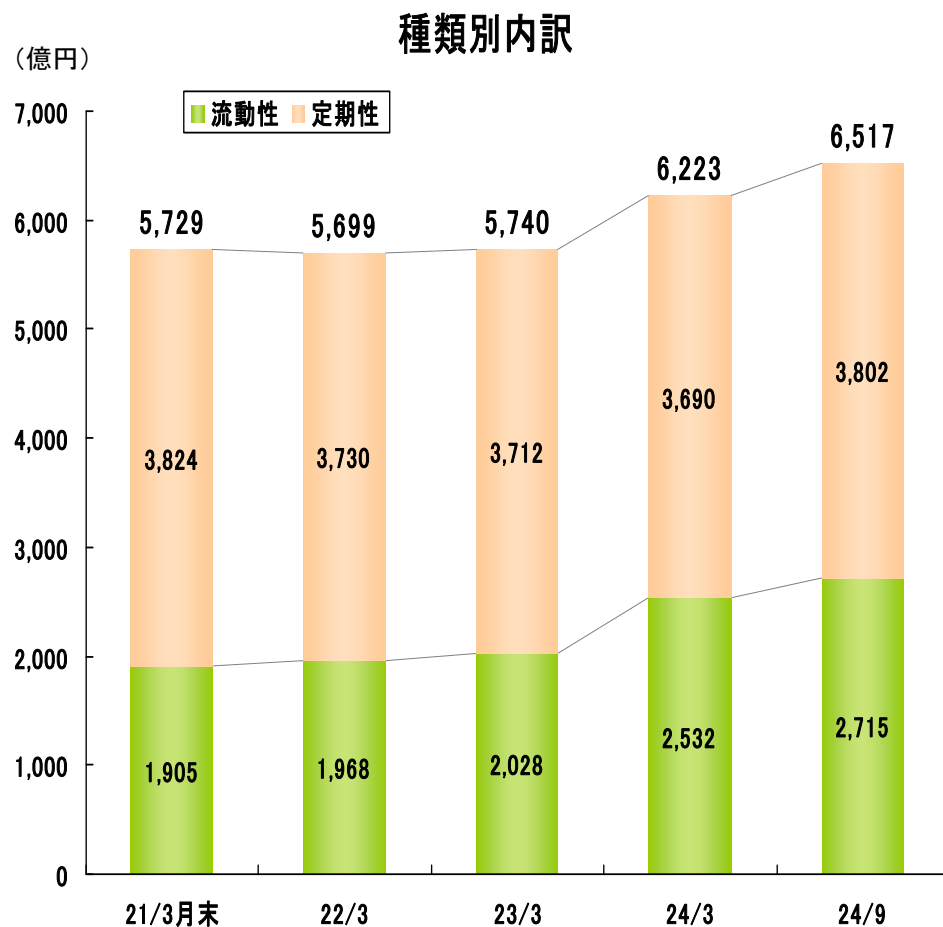
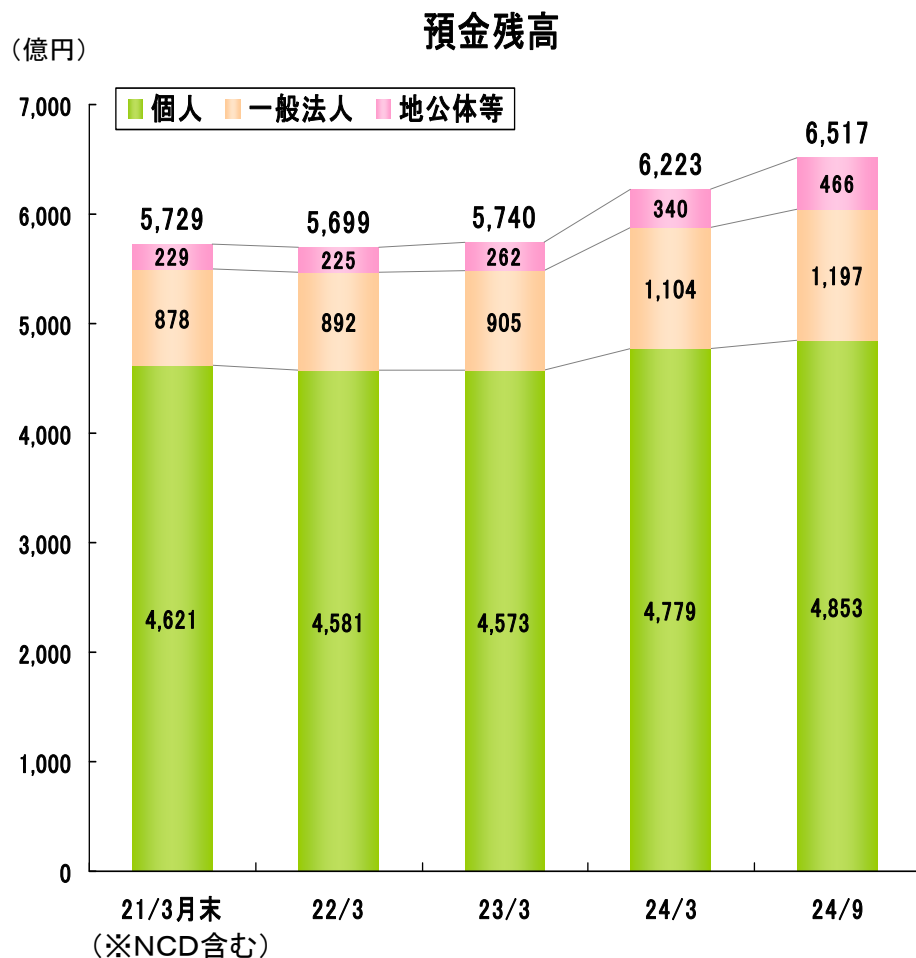
財務内容

- 金融再生法開示債権比率は3月末比0.26%ポイント低下し、3.47%。
- 自己資本比率は3月末比0.30%ポイント上昇し、9.13%。Tier I 比率は0.33%ポイント上昇し、7.02%。

2. 営業

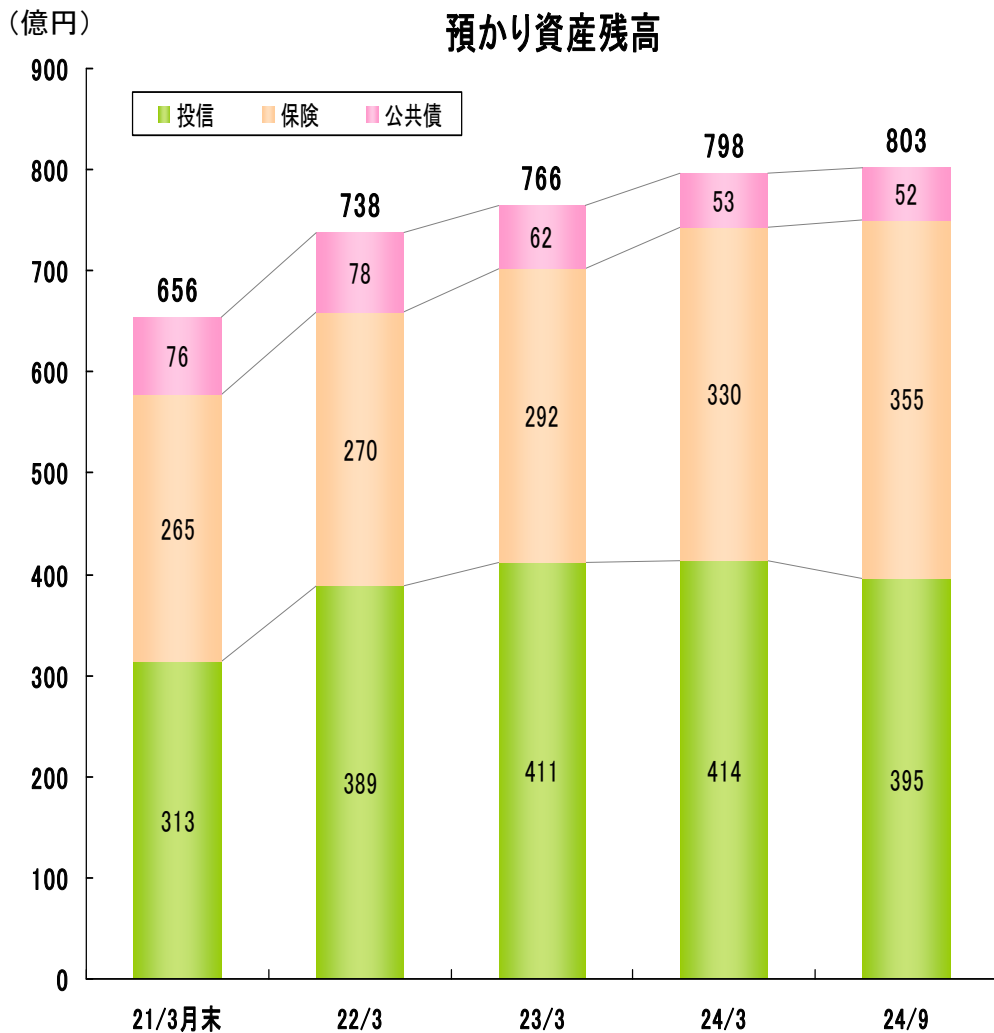
(1) 預金

- 預金残高は6,517億円、3月末比4.7%増。
- 24年度上期中は、賠償金の流入等から294億円増加(23年度上期540億円増)。
増加の内訳は流動性が183億円、定期性が111億円。

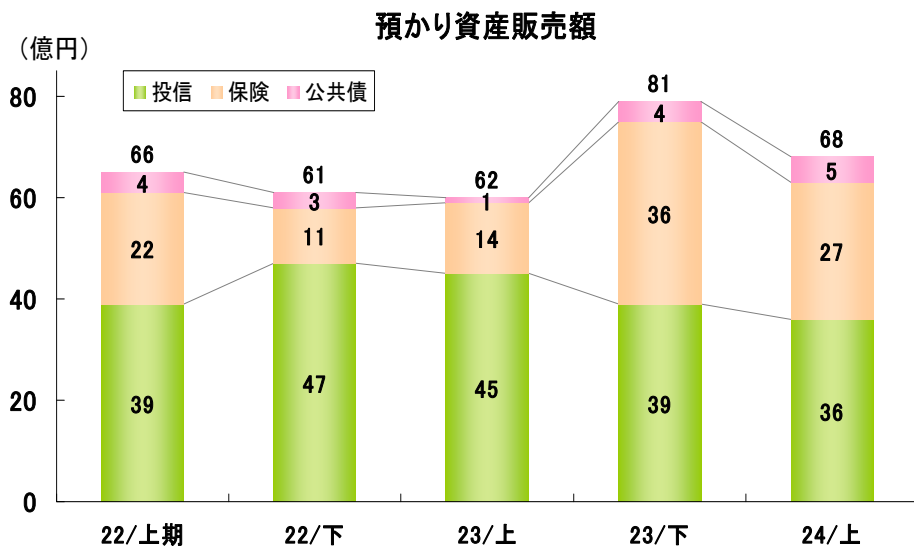


(2) 預かり資産

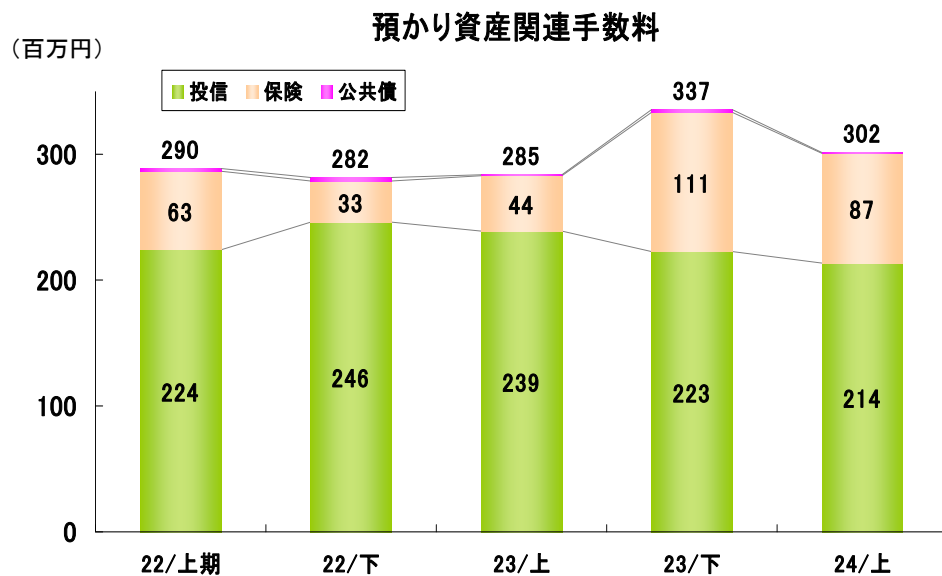
○ 預かり資産残高は803億円、3月末比0.5%増。



○ 販売額は、23年度下期比13億円減少。

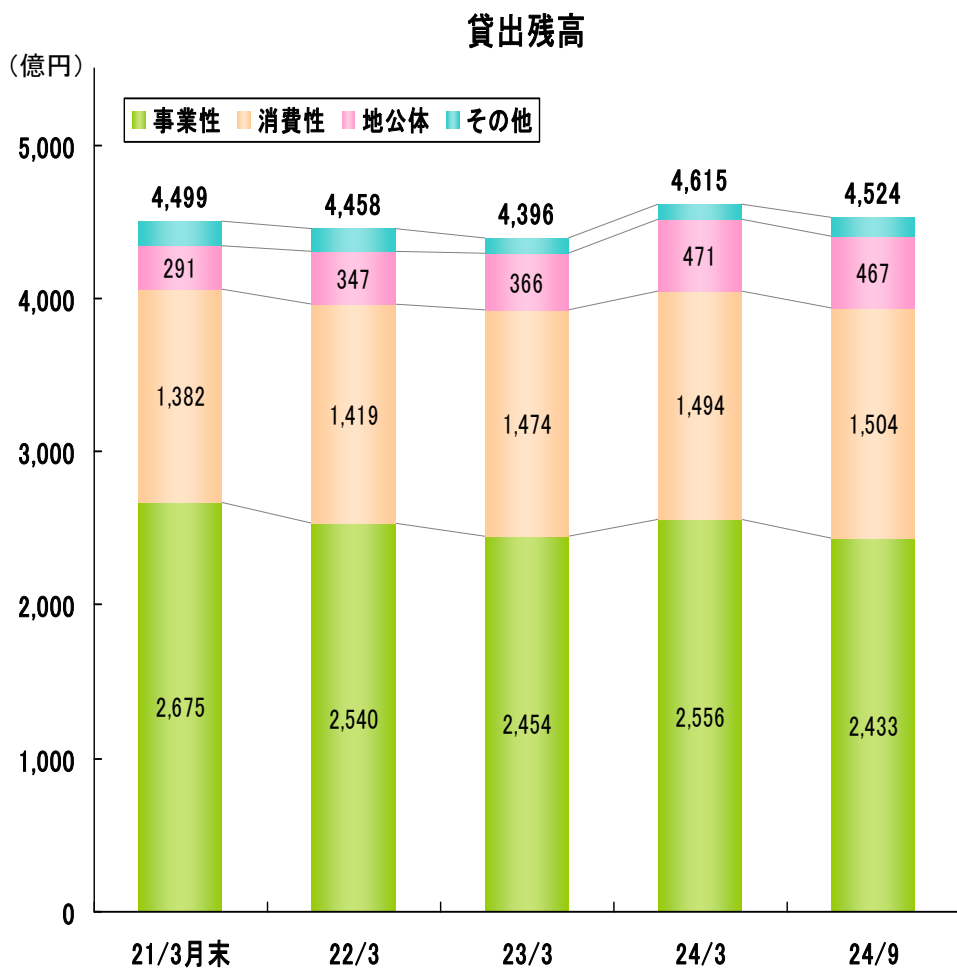


○ 販売額の減少等から、手数料は23年度下期比35百万円の減少。

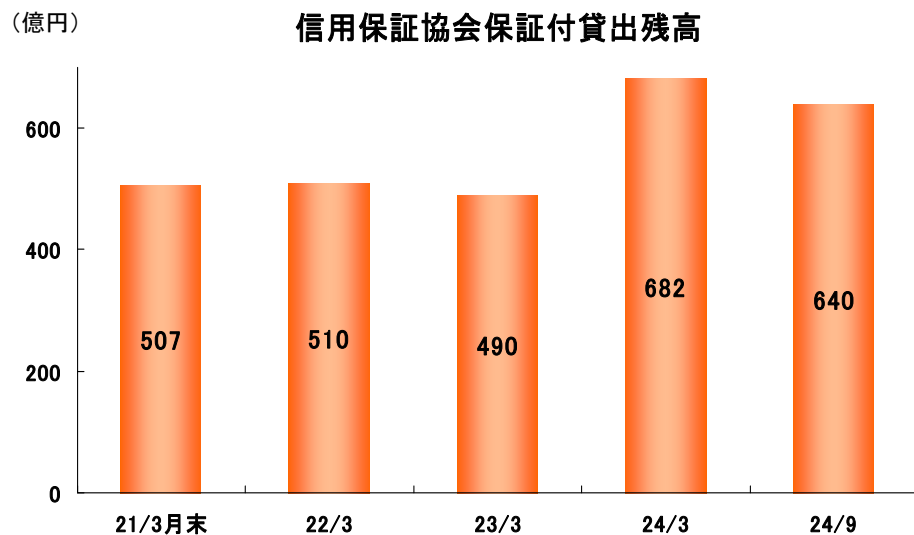


(3) 貸出

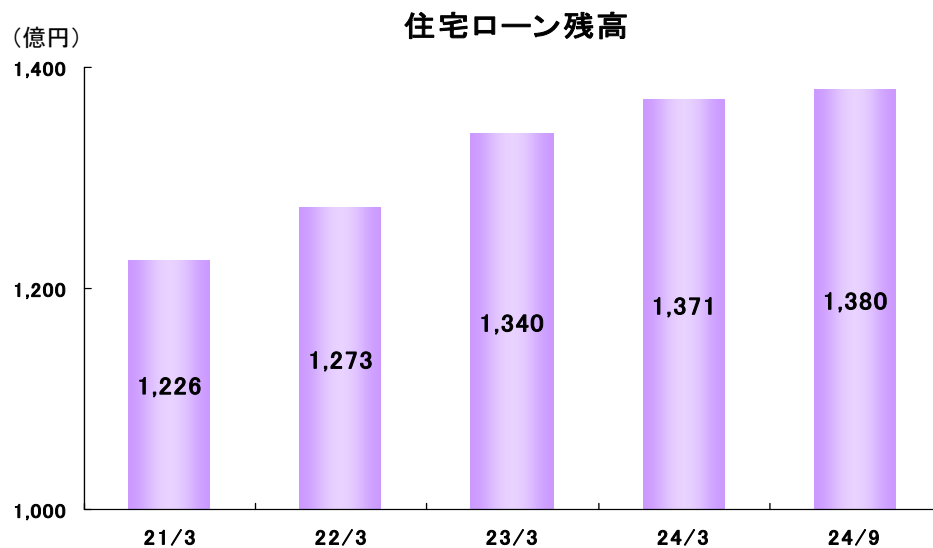
- 貸出残高は4,524億円、3月末比1.9%減。
24年度上期中、91億円の減少(23年度上期68億円増)。
- 9月末の預貸率は末残69.4%(23年度上期71.0%)、平残70.3%(同72.4%)に低下。



- 事業性貸出は123億円の減少。
— 事業性貸出の減少は昨年大幅に伸びた震災関連制度資金の需要低迷によるところが大きい。

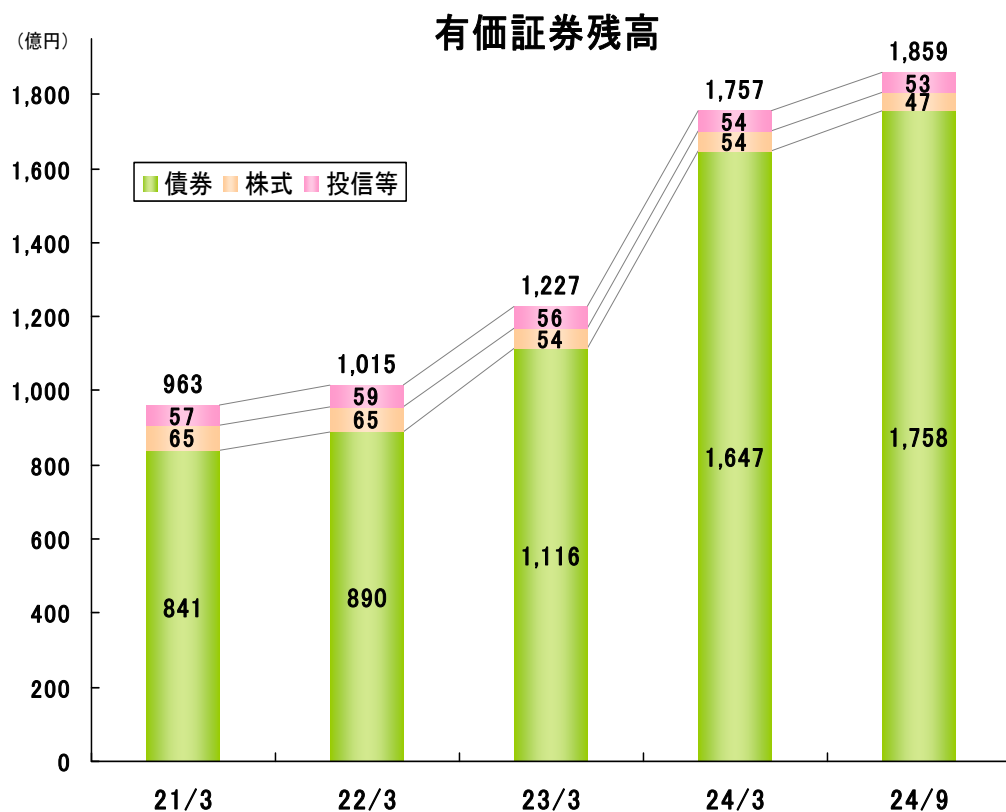


- 住宅ローンの伸びは鈍化。



(4) 有価証券

- 24年度上期の有価証券は債券を中心に102億円増加し、9月末の残高は1,859億円、3月末比5.8%増。
- この結果、預証率は末残28.5%(3月末28.2%)、平残28.6%(同28.0%)に上昇。
- 債券のデュレーション(残存期間)は4.4年とやや長期化(3月末4.1年)。
- 「その他有価証券」の含み損益はほぼゼロ(3月末▲2億円)。



保有債券の内訳

(単位:億円)

		上期中増減		24/9月末残高	
			23/上期		23/上期比%
発行者別	国内債	202	346	1,587	22.0
	うち 国債	69	130	977	11.6
	事業債	109	108	359	57.0
	外国債	▲91	127	171	▲40.9
残存期間別	1年未満	▲86	77	56	▲75.7
	1年以上5年未満	78	560	1,026	4.2
	5年以上10年未満	119	▲130	634	96.1
	10年以上	▲0	▲33	41	▲19.4
合計		110	473	1,758	10.5

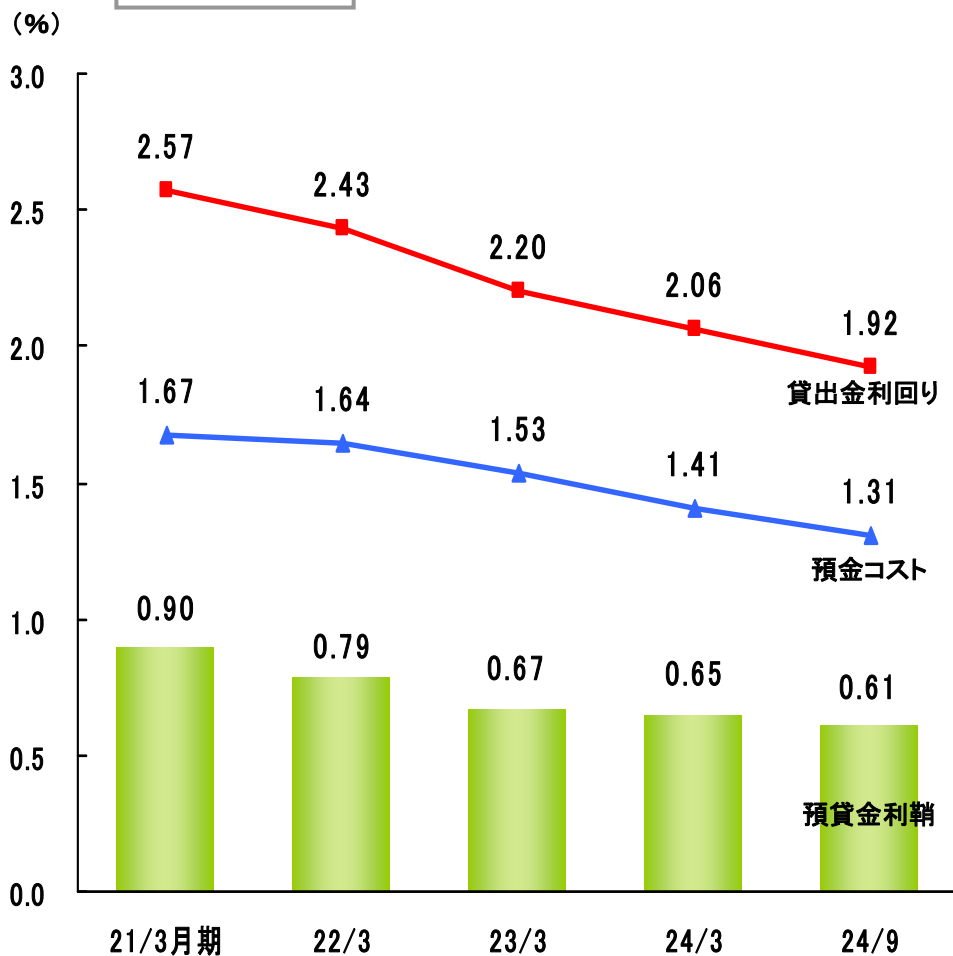
保有有価証券の含み損益 (「その他有価証券」ベース)

(単位:億円)

	合計	債券	株式	投信等
22/3月末	▲7	3	▲2	▲8
23/3月末	▲19	▲2	▲5	▲10
24/3月末	▲2	7	▲2	▲7
24/9月末	0	13	▲5	▲7

(5) 利鞘

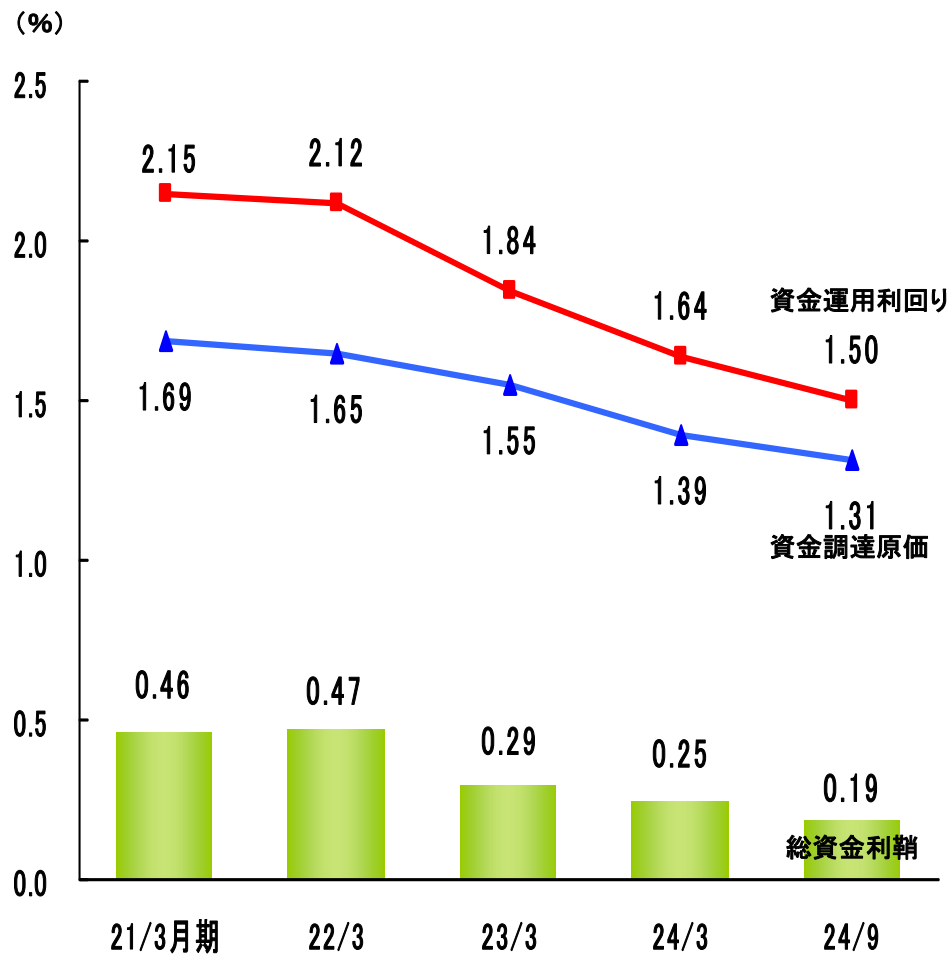
預貸金利鞘



(参考) 預金利回り

期	21/3	22/3	23/3	24/3	24/9
預金利回り	0.37	0.27	0.19	0.14	0.12

総資金利鞘



(参考) 有価証券利回り

期	21/3	22/3	23/3	24/3	24/9
有価証券利回り	1.17	1.45	0.83	0.77	0.70

3. 損益

(単位:億円)

(1) 業務純益・経常利益・中間純利益

- 経常収益は71億円と、前年同期比3億円の増加。
- 業務純益は11億円と、前年同期比1億円の増加。
 - 業務収益は貸出金利の低下により貸出金利息が減少したものの、債券関係益の増加により前年同期とほぼ同水準の収益を確保。
 - 業務費用は預金金利の低下による預金利息の減少、債券関係損の減少により前年同期比1億円の減少。
 - コア業務純益は10億円と同1億円の減少。
- 臨時損益は与信関連費用の減少等から、前年同期比5億円改善。
- この結果、経常利益は12億円と前年同期比6億円の増益、中間純利益は8億円と同2億円の増益。

※経常収益 …… 一般企業の売上に該当

※業務純益 …… 一般企業の営業利益に該当

※コア業務純益 …… 業務純益から債券関係損益と一般貸倒引当金繰入額を除いたもの

	24/9月期	23/9月期	前年同期比
経常収益(①+⑦)	71	67	3
業務収益①	62	62	▲ 0
うち貸出金利息	42	44	▲ 1
うち有価証券利息	6	6	0
うち受入手数料	9	9	0
うち債券関係益②	4	2	1
業務費用③	51	52	▲ 1
うち預金利息	3	4	▲ 0
うち支払手数料	5	4	0
うち一般貸倒引当金繰入④	-	-	-
うち債券関係損⑤	3	4	▲ 0
うち営業経費	38	38	0
うち人件費	18	16	1
うち物件費	17	18	▲ 0
業務純益⑥(①-③)	11	10	1
コア業務純益(⑥-(②-⑤)+④)	10	12	▲ 1
臨時収益⑦	8	4	3
うち貸倒引当金戻入益	5	1	3
うち償却債権取立益	0	1	▲ 0
臨時費用⑧	7	9	▲ 1
うち貸出金償却・売却損等	2	3	▲ 0
うち株式等償却・売却損	4	5	▲ 1
臨時損益⑨(⑦-⑧)	0	▲ 4	5
経常利益⑩(⑥+⑨)	12	6	6
特別損益⑪	▲ 0	▲ 0	0
法人税等⑫	3	0	3
中間純利益(⑩-⑪-⑫)	8	6	2

(2) 与信関連費用

○24年度上期の与信関連費用は、倒産が少なかったこと等から貸倒引当金が戻入となり、▲283百万円となった。

与信関連費用の内訳

(単位:百万円)

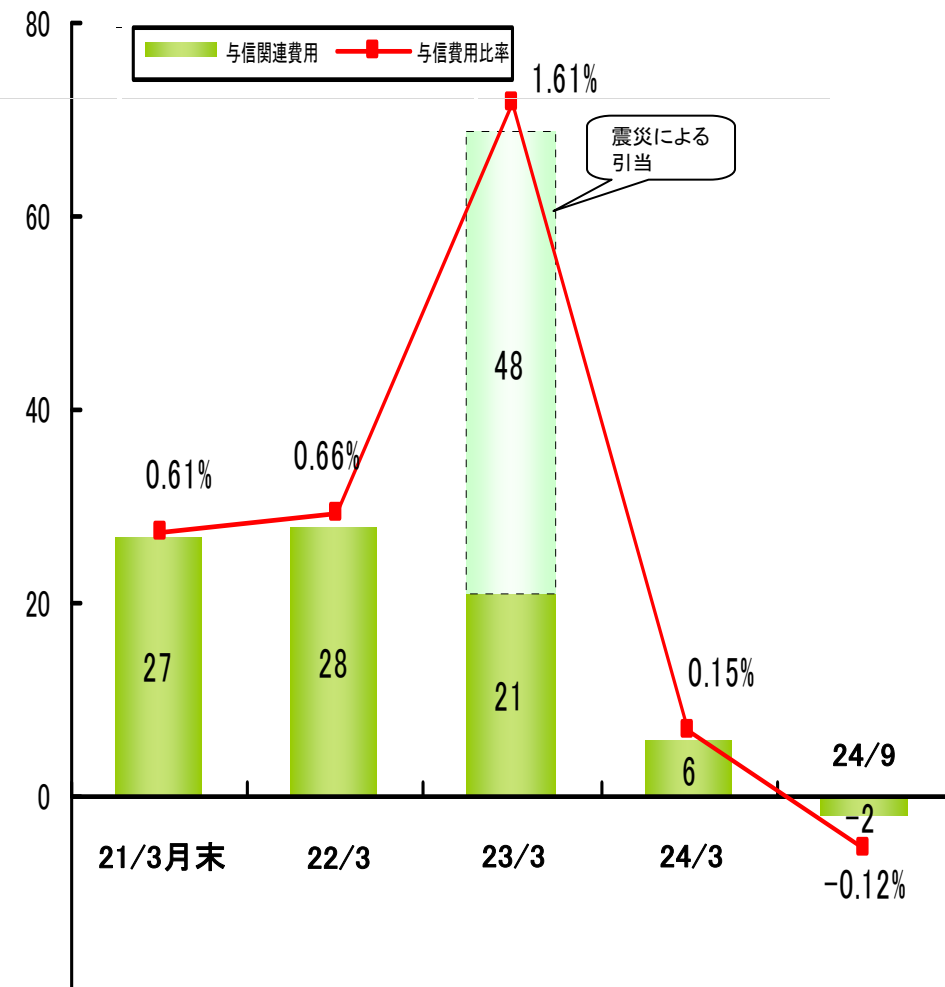
	24/9月期	23/9月期	前年同期比
貸倒引当金繰入①	-	-	-
貸出金償却②	220	218	2
債権売却損等③	-	99	▲ 99
貸倒引当金戻入④	504	112	392
与信関連費用 (①+②+③-④)	▲ 283	205	▲ 488

○与信費用比率は-0.12%(年率換算)。

※与信費用比率=与信関連費用÷貸出金平残

与信関連費用の推移

(億円)



4. 財務内容

(1) 金融再生法開示債権

- 金融再生法開示債権(※)は3月末比15億円の減少。
- 金融再生法開示債権比率は3.47%に低下(3月末3.73%)。

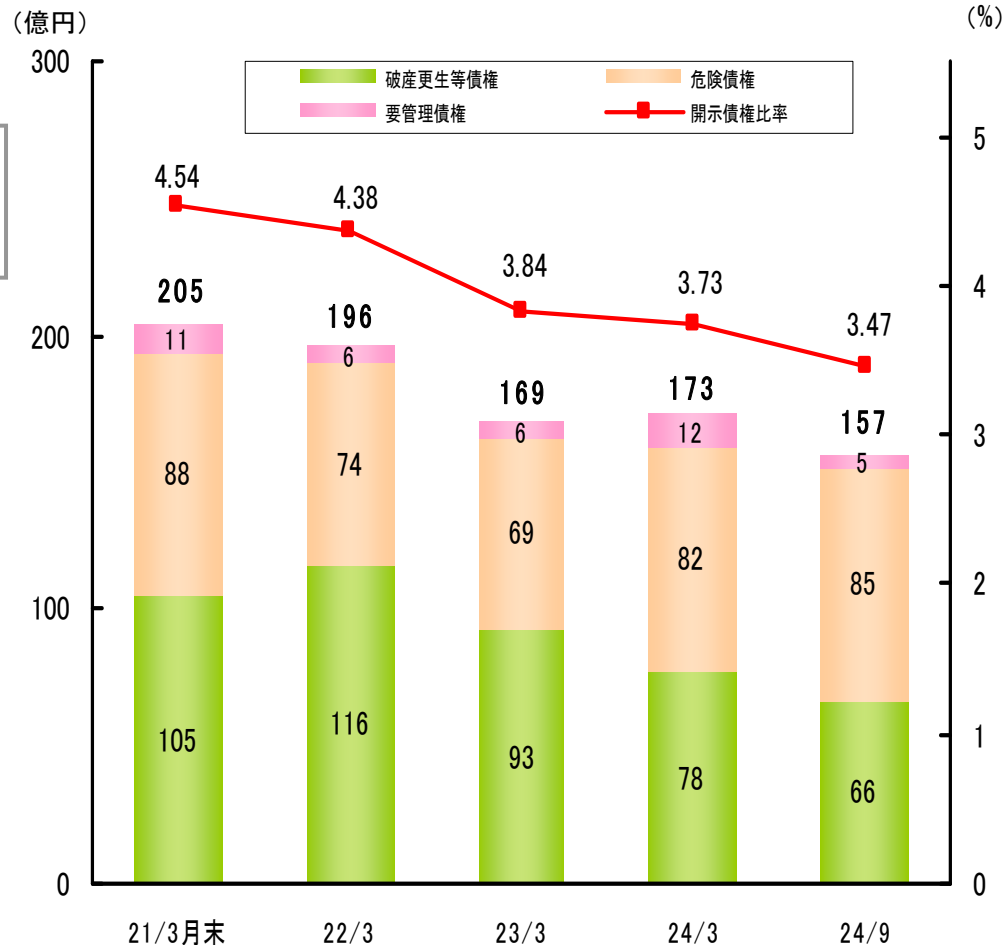
※ 金融再生法に基づき金融機関が開示を義務付けられている「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」、「要管理債権」の合計。

金融再生法開示債権の増減要因

(単位:億円)

	23/3月期	24/3月期	24/上期
正常債権への 上方シフト	▲ 3	▲ 4	▲ 10
正常債権からの 下方シフト	38	56	11
償 却	▲ 36	▲ 18	▲ 4
売 却	▲ 1	▲ 7	0
返済・回収	▲ 25	▲ 24	▲ 12
合 計	▲ 27	3	▲ 15

金融再生法開示債権の動向



①破産更生債権及びこれらに準ずる債権

破産、会社更生、再生手続等により経営破綻に陥っている債務者に対する債権。

②危険債権

経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、債権元本の回収、利息の受取りができない可能性の高い債権。

③要管理債権

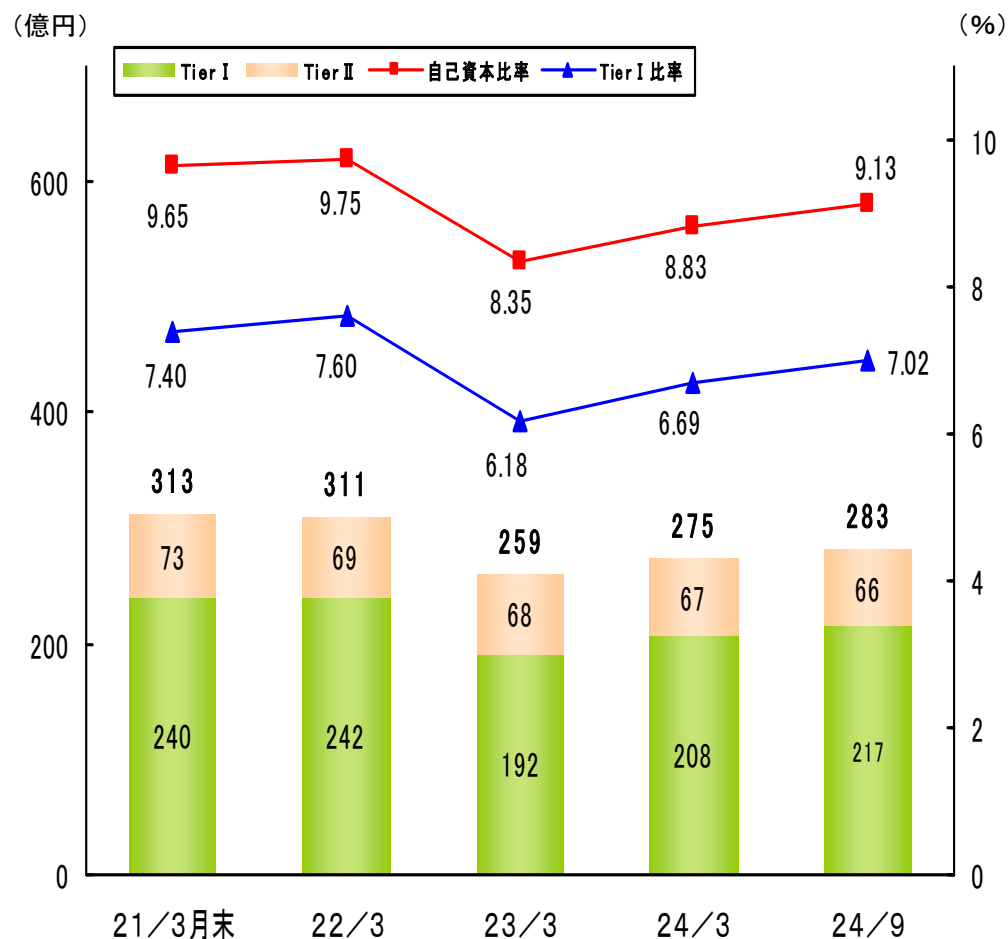
3か月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権。

(2) 自己資本

○ 24年9月末の自己資本比率は、単体は9.13%（3月末8.83%）、連結は9.21%（同8.92%）と上昇。

－自己資本は3月末比7億円の増加。

－リスクアセットは貸出の減少等から同17億円の減少。



(単位: 億円、%)

	24/9月末	24/3月末	3月末比
自己資本 A	283	275	7
Tier I (中核的資本)	217	208	8
Tier II (補完的資本)	66	67	▲1
控除項目	▲1	▲1	-
リスクアセット B	3,099	3,116	▲17
信用リスクアセット	2,901	2,915	▲14
うち貸出	2,378	2,413	▲35
うち有価証券	317	288	28
オペレーショナルリスクアセット	198	201	▲2
単体自己資本比率 A/B	9.13	8.83	0.30
(参考)連結自己資本比率	9.21	8.92	0.29

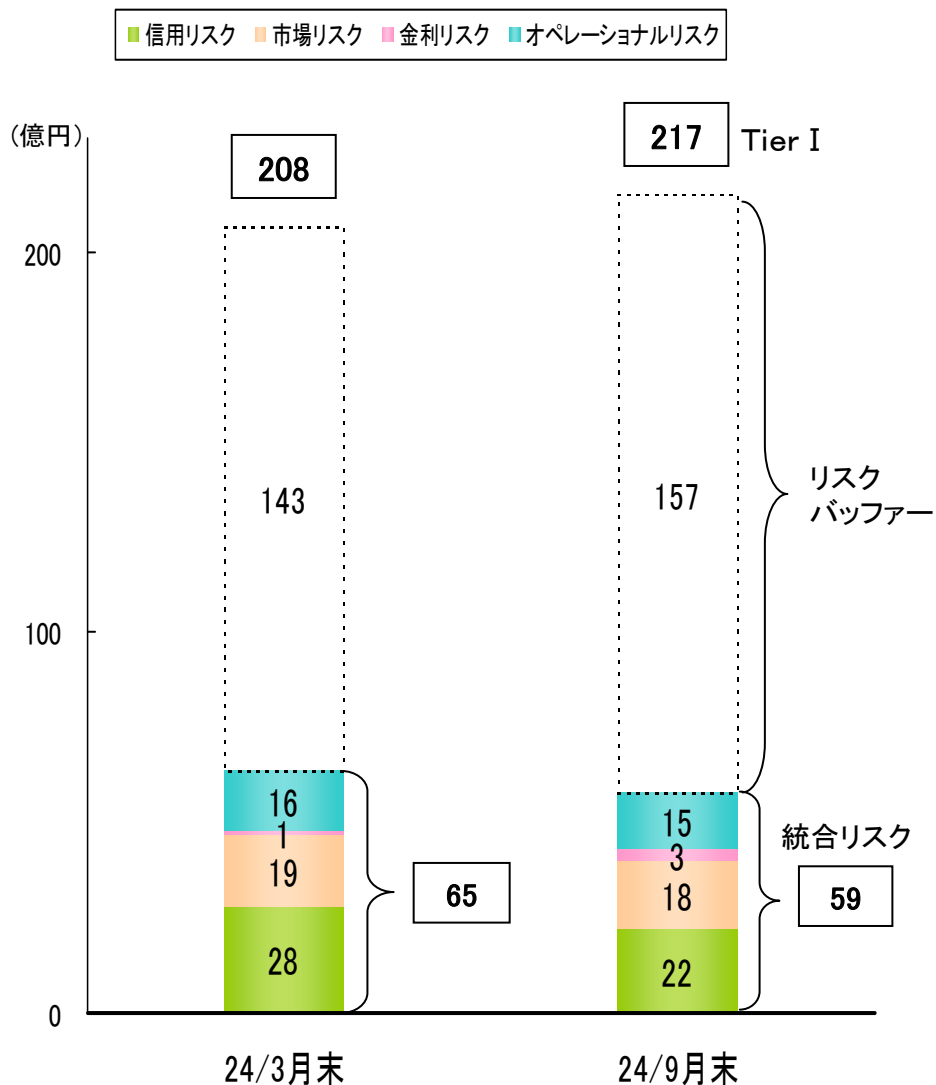
(参考)有価証券の含み損を考慮した実質自己資本比率

(単位: %)

	24/9末	24/3末	3月末比
単体	9.13	8.75	0.38
連結	9.21	8.85	0.36



- 24年9月末の統合リスク量は59億円で、3月末比5億円の減少。
- 一方、9月末の中核的自己資本(Tier I)は217億円と統合リスク量を大幅に上回り、営業上自己資本の制約はない。
- なお、アウトライヤー規制における9月末の銀行勘定金利リスク量は自己資本の2.2%に低下(3月末4.5%)。



(注) 統合リスク量 = 信用リスク、市場リスク、金利リスク、オペレーショナルリスクの単純合計。

・信用リスク、市場リスク、金利リスクはVaR(一定期間に一定確率で被り得る最大損失額)による。

VaRの計測方法—観測期間1年、信頼水準99%、保有期間は次のとおり。

信用リスク: 1年(240日)

市場リスク: 政策投資株式・満期保有目的債券・仕組ローン各120日、
売買目的有価証券10日、
その他有価証券60日

金利リスク: 半年(120日)

平成23年3月末より、要求払預金の実質的な期間を内部モデルで推計し算出

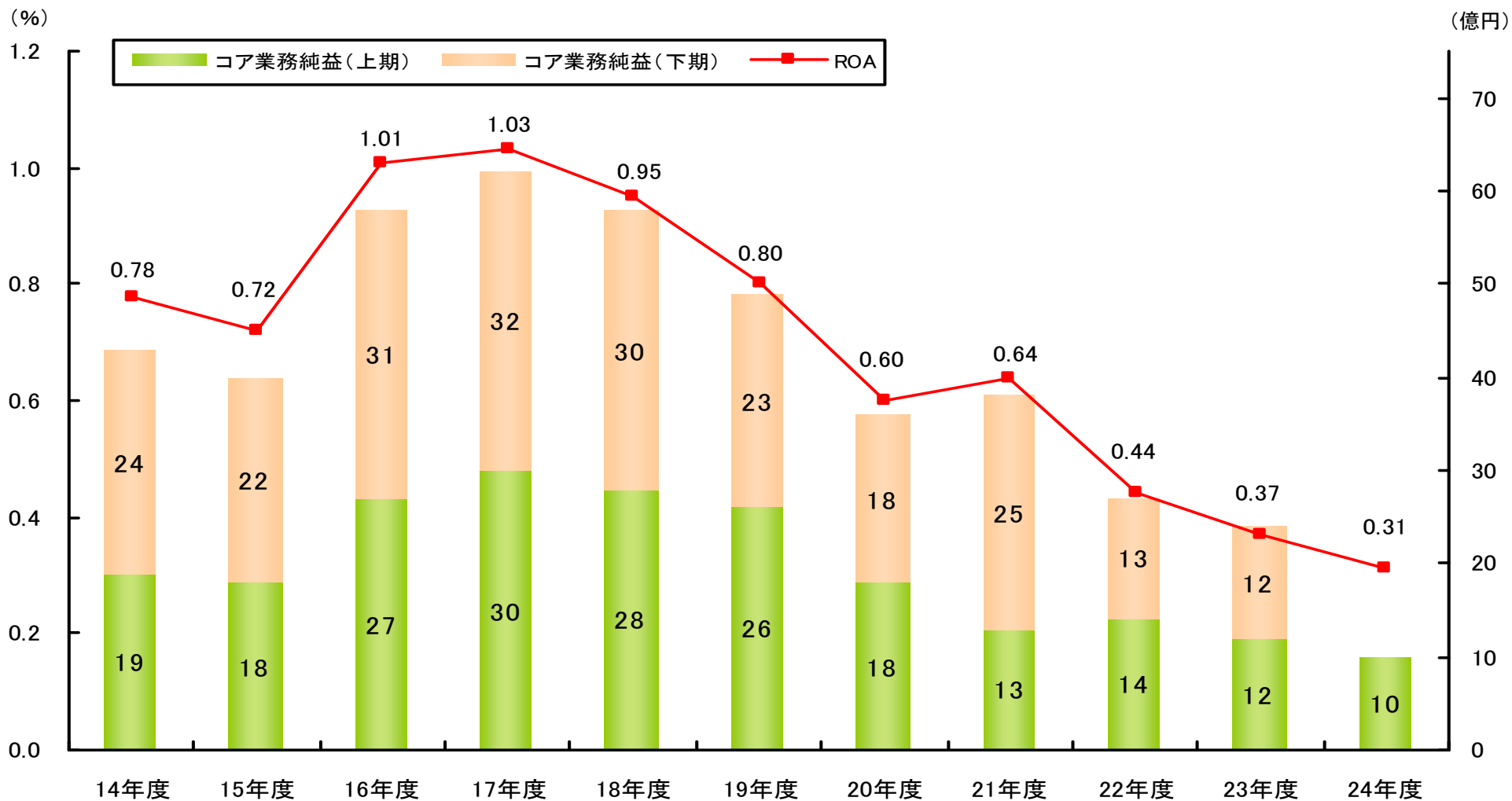
・オペレーショナルリスクは基礎的手法(年間業務粗利益の15%)による。

5. やや長い目でみた経営動向

(1) 収益性

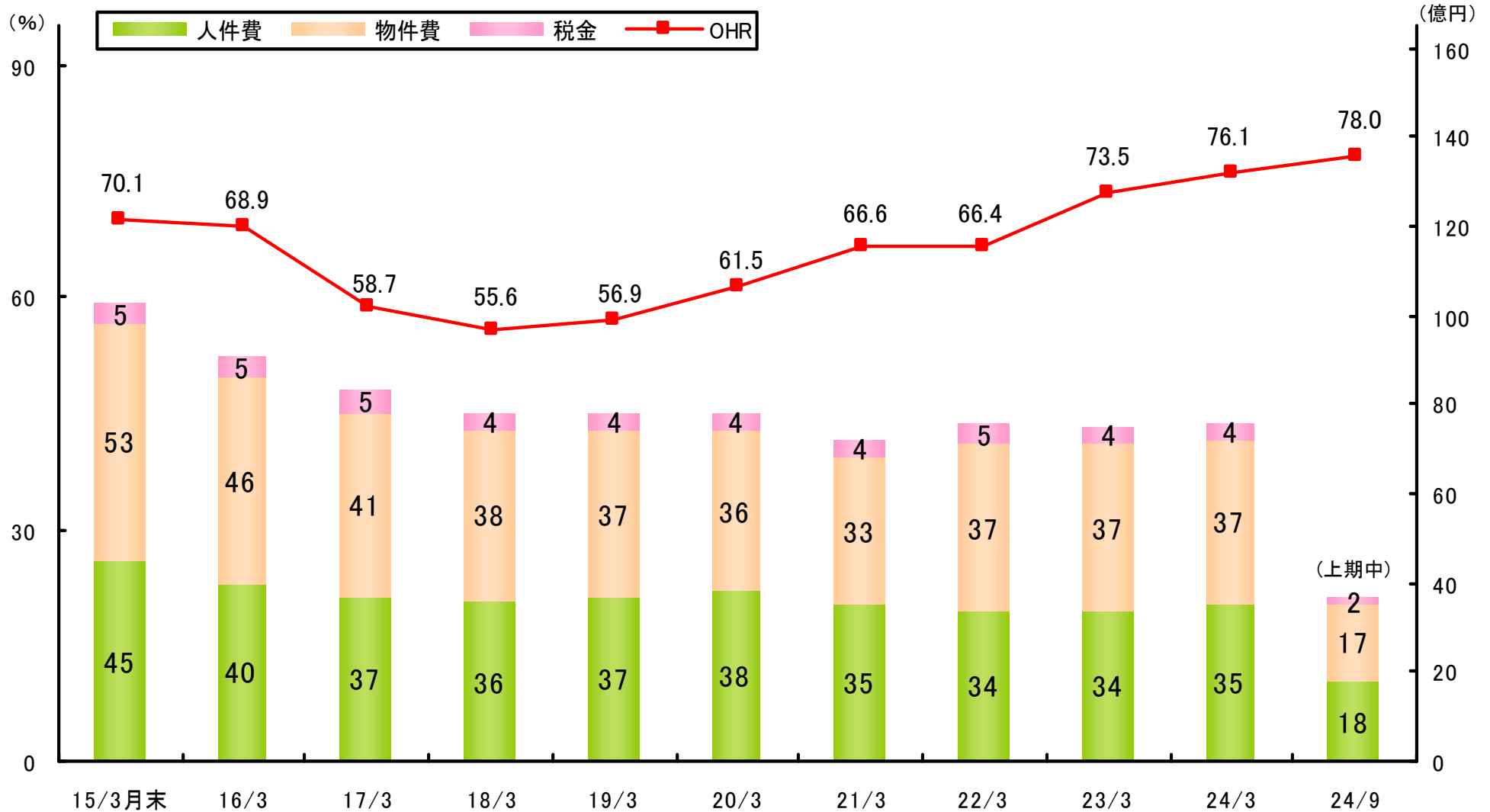
コア業務純益とROA

○ コア業務純益の低下から引き続き低迷。



経費とOHR

○コア業務純益の低下から上昇傾向にある。



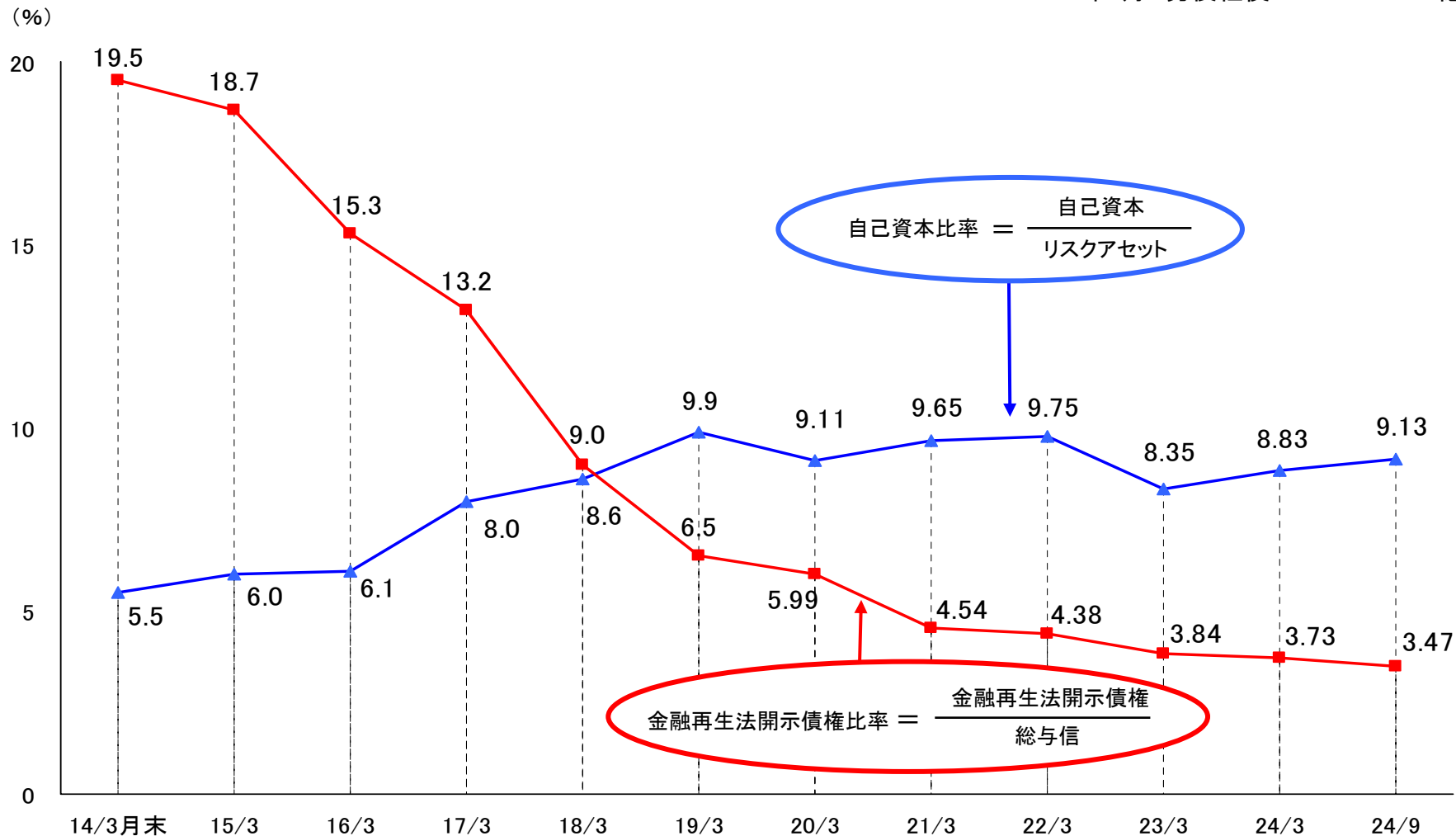
(2)健全性

金融再生法開示債権比率と自己資本比率

- 金融再生法開示債権比率は引き続き低下。
- 自己資本比率は、23年3月期に大幅低下の後、上昇。

(参考)資本の外部調達

14年3月	第三者割当増資	146億円
16年9月	新株予約権付社債	20億円
17年3月	劣後社債	45億円
18年9月	新株予約権付社債	45億円
(22年3月 劣後社債45億円償還)		
22年3月	劣後社債	37億円



6. 今期の業績予想

○25年3月期については、単体で経常利益17億円、純利益15億円程度を予想している。

—5月15日に発表したとおり。景気の不透明感等から業績予想の修正は行わない。

○25年3月期の配当は1株当り年1円を予定している。

25年3月期予想

(単位: 億円)

		24/3月期 実績	24/9月中間期 実績	25/3月期 予想
単 体	経常収益	141	71	132
	経常利益	22	12	17
	純利益	17	8	15
連 結	経常収益	163	79	152
	経常利益	25	11	19
	純利益	20	8	17

7. 中期経営計画の推進

ふくぎん 本気(マジ)宣言

(平成24年4月～平成27年3月)

目指す姿

「真面目にがんばっている人を 真面目に応援する 真面目な銀行」

真面目にがんばっている人

人生や事業に真剣に向き合い、夢や目標の実現に向かって努力している人

真面目に応援する

お客様としっかり向き合い、真にお客様の利益を考え、お客様をサポートする

真面目な銀行

高い志と倫理観を持ち、堅実経営に徹する

基本方針

新しい福島創造への
積極的貢献

「お客様本位」の
徹底

地域のお客様との
取引拡大と深化

安定した収益力と
強固な財務基盤の
実現

社会貢献への
取組み強化

基本方針に基づく施策①

◆「シニアのお客様への本気(マジ)宣言！！」(高齢のお客様へのサービス向上)

高齢のお客様を対象としたサービスや様々なお取引の利便性向上への取り組み。

1. 基本となる考え方

- ・ 高齢者に優しいことはすべての人に優しい。
- ・ 高齢者に易しいことはすべての人に易しい。

2. 施策のコンセプト

- シニアのお客様にとって「いちばん親切な銀行」になること
- シニアのお客様が「いちばん安心して取引できる銀行」になること
- シニアのお客様の「豊かな生活をサポート」すること

3. 具体的施策

- サービス・ケア・アテンダントの全店配置
- 見やすく記入しやすい伝票類(入金・出金・振込等)への変更
- 預かり資産についてのよりわかりやすい注意表示
- 投資信託「ゆっくり検討プラン」開始
- 預かり資産の説明にご家族の同席を推奨
- 当行で年金をお受け取りいただいている方へのサービス拡充
 - ・ 他行ATM利用手数料のキャッシュバック
 - ・ 貸金庫利用手数料の当初1年間無料
 - ・ 専用フリーダイヤル設置

※ 上記のほか、今後継続して様々な施策を行っていく予定。

基本方針に基づく施策②

◆尾瀬の環境保護定期預金「みんなの尾瀬」の発売

お客様と当行が力を合わせて尾瀬の環境保護を支援するコンセプト。
金利は通常の定期預金に比べ0.005%低く設定。0.005%の2倍に当たる定期預金残高の0.01%相当額を当行が尾瀬保護財団に寄付する。

◆「ふくぎん みんなのサポート市民活動助成金」創設

毎年県内のNPO法人から応募を募り、助成金を贈呈。
対象分野は高齢者福祉、母子児童福祉、子育て支援、こども教育、こどもの健全育成。

◆授産施設製品の展示即売会サポート

授産施設製品の展示即売会の場所として当行施設を提供。

◆高齢者向け金融教室開催

高齢者を対象とした金融詐欺の増加を踏まえ、最近の詐欺事例やその対応策などを解説し、お客様の財産保護をサポート。

◆こども向けワークショップ開催

小学校高学年の児童を対象に、県内3地区で工作教室を開催。

(付) 営業店一覧(24年11月13日現在)

	店舗名	営業店長	電話番号
県北	本店営業部	常務執行役員 鈴木 弘志	024-525-2911
	渡利出張所	田中 良幸	024-523-3341
	山下町出張所	佐藤 哲也	024-531-5311
	泉出張所	南 健治	024-559-1231
	福島西支店	渡辺 吉信	024-534-7158
	福島北支店	早川 貴郎	024-553-5561
	福島南支店	古川 次男	024-545-3111
	蓬萊出張所	岩本 学	024-548-6331
	笹谷支店	半澤 健一	024-558-1135
	岡部支店	瀬谷 照雄	024-531-8081
	大森支店	佐久間 行英	024-546-5911
	八島田支店	富永 賢治	024-558-6001
	飯坂支店	岸波 晃一郎	024-542-3251
	保原支店	今村 正弘	024-575-3101
	桑折支店	末永 秀一	024-582-2207
	川俣支店	横山 利幸	024-565-2211
	二本松支店	安達 英範	0243-22-2151
	県中	本宮支店	伊藤 伸一
郡山営業部		執行役員 高野 俊哉	024-932-1500
芳賀支店		寒河江 英一	024-956-0188
開成支店		田中 真一	024-921-0301
大槻支店		黒須 正雄	024-951-8500
富久山支店		神谷 義晴	024-934-1620
菜根支店		本名 勝幸	024-923-4500
安積支店		上野 裕之	024-945-5530
荒井支店		紺野 晃弘	024-946-1850
富田支店		手代木 巧成	024-952-3922
須賀川支店		小野 英典	0248-75-2158

	店舗名	営業店長	電話番号
県南	矢吹支店	眞壁 孝文	0248-42-3911
	白河支店	中谷 幸信	0248-24-1311
	船引支店	佐々木 茂雄	0247-82-1151
	石川支店	江本 裕	0247-26-2127
	棚倉支店	富山 浩明	0247-33-2211
	矢祭支店	猪股 徹也	0247-46-3141
会津	会津支店	稲村 修	0242-26-6311
	門田支店	小枝 政之	0242-28-5131
	猪苗代支店	大橋 徹	0242-62-2054
	喜多方支店	山口 啓二	0241-22-2163
浜通り	相馬支店	牛澤 秀晃	0244-35-2161
	原町支店	前野 博之	0244-23-2158
	浪江支店	小貫 博市(兼務)	※
	富岡支店		※
	四倉支店	山本 利幸	0246-32-4151
	平支店	佐藤 明則	0246-23-3331
	平東出張所	宮崎 浩行	0246-21-5411
	内郷支店	河野 一郎	0246-26-2061
	湯本支店	小石沢 好勝	0246-42-2138
	小名浜支店	吉田 直人	0246-53-4101
植田支店	草野 真之	0246-62-2151	
県外	仙台支店	林 昭夫	022-223-8191
	黒磯支店	織内 康司	0287-62-1625
	水戸支店	熊坂 光幸	029-224-5606
	大宮支店	箭内 貴志	048-643-2830

※臨時窓口(福島市の本店内)の電話番号

浪江支店 024-525-2946 富岡支店 024-525-2947

本資料には、将来の業績に係る記述が含まれております。

こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。

将来の業績は、経営環境の変化などにより異なる可能性があることにご留意ください。

～お問合わせ先～

株式会社福島銀行 経営企画室長 森 義宏

広報担当 佐藤由佳子

TEL: 024-525-2525 (代)

FAX: 024-536-5338

E-Mail: keiki@fukushimabank.co.jp

URL: <http://www.fukushimabank.co.jp/>

以 上